

2017年（平成29年） 3月3日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

2/16~2/22のNYMEX・WTIIは、引き続き、OPEC・非OPECの協調減産実施と米国の供給増加見通しを材料に、53.36~54.06ドルの狭い範囲の中で堅調に推移した。

2月23日は、同日の米国エネルギー情報局(EIA)の週間在庫報告で、原油在庫は7週連続で増加したものの、増加幅は80万バレルと市場予想(350万バレル増)を大幅に下回るもので、ガソリン・中間留分とも減少を示したことから反発した。4月限の終値は前日比0.86ドル高の54.45ドルだった。

週末24日は、前日の高値の反動で利食い売りが台頭、午後には、ペーカーヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数602基(前週比5基増加)の報告もあり、反落した。4月限の終値は前日比0.46ドル安の53.99ドルだった。

週明け27日は、石油輸出国機構(OPEC)の2月の減産が1月より進んだとの観測が広がり、ロシアのノバク・エネルギー相が同国の減産計画加速化を示唆したことから、小幅に反発した。ただ、WTII原油の現物受け渡し点であるクッシングの原油在庫が増加した旨の民間調査機関の報告が上値を抑えた。4月限の終値は前日比0.06ドル高の54.05ドルだった。

28日は、依然として残る米国の供給過剰懸念を反映して反落したが、午後、バイオ燃料の混合規制緩和に関する準備中の大統領令をめぐる、相異なる報道が出て下げ幅を圧縮する形となった。4月限の終値は前日比0.04ドル安の54.01ドルだった。

3月1日は、ガソリン相場下落やドル高の進行などから続落した。4月限の終値は、0.18ドル安の53.83ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(4月

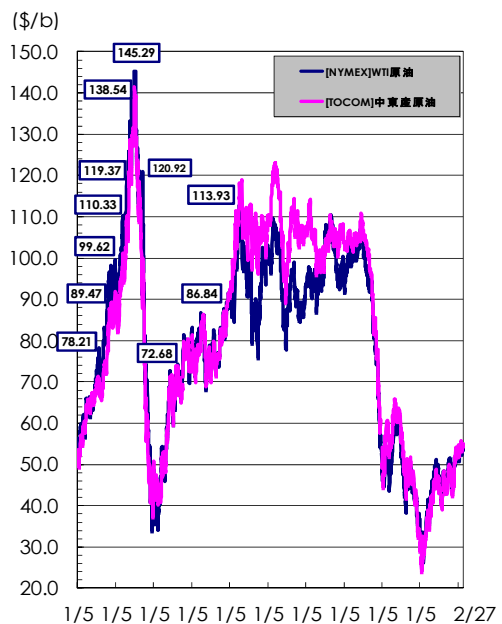
渡し)は、前週54.00~55.00ドルと、一段と堅調に引き続き狭い範囲で推移した。23日は54.40ドル、24日は54.90ドル、27日は54.90ドル、28日は54.90ドル、3月1日は55.90ドルで推移した。

為替は、前週112.88~114.11円と狭い範囲で推移した。23日は113.37円、24日は112.86円、27日は112.18円、28日は112.56円、3月1日は113.17円で推移した。

主要元売会社の3月第1週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、1.0円の値下げから3.0円の値上げに分かれた。原油価格は値上がり、為替レートは小幅に円高で、原油調達コストはやや値上がりした。

そのような中で、2月27日時点の小売価格は、ガソリンが0.2円値上がりの130.8円、軽油が0.1円値上がりの110.2円、灯油は横ばいの78.0円だった。ガソリンは5週振りの値上がり、軽油も5週振りの値上がり、灯油は2週振りの横ばいだった。この週(2月第4週)の原油コストはわずかに値上がりし、元売の卸価格は1.0~2.0円の値上げだった。

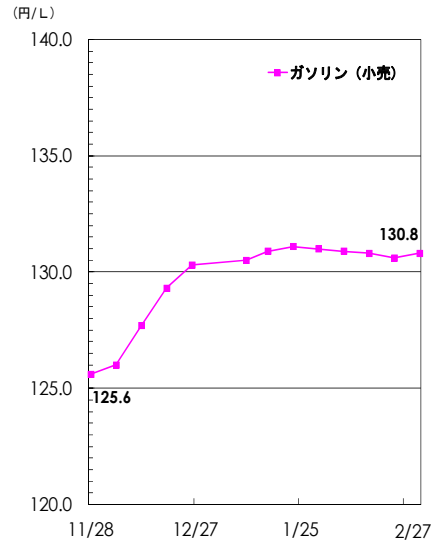
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	2/19 ~ 2/25	3,914 ▼ -46	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	92.8 ▼ -1.1	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	2/25	13,032 ▲ 736	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	2/27	55.05 ▲ 0.37	▲ 23.4
	WTII原油(NYMEX) (\$/bbl)	2/27	54.05 ▼ -0.01	▲ 20.3
	原油CIF単価 (\$/bbl)	2月上旬	54.70 ▼ -0.17	▲ 24.27
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	39,186 ▼ -592	▲ 16,707
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	113.90 ▲ 1.36	▲ 3.53
	外国為替TTSレート (¥/\$)	2/27	113.18 ▲ 0.70	▲ 1.44



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	2/19 ~ 2/25	984 ▼ -92	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	975 ▲ 151	▼ -	
	輸出	"	161 ▲ 28	▲ -	
	在庫	2/25	1,711 ▼ -153	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/21 ~ 2/27	50.9 ▲ 3.0	▲ 19.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/21 ~ 2/27	53.1 ▲ 2.6	▲ 17.3
		(TOCOM/中部)	2/27	53.5 ▲ 3.0	▲ 18.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	2/27	130.8 ▲ 0.2	▲ 18.3	

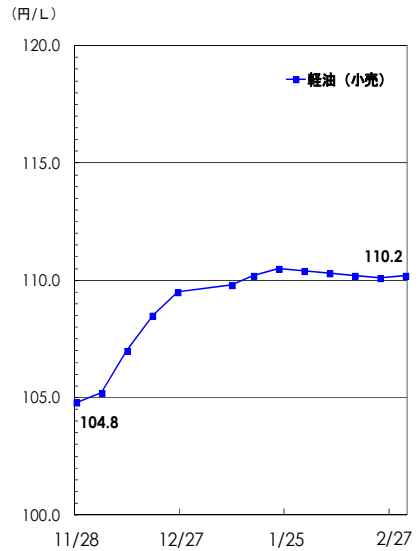
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

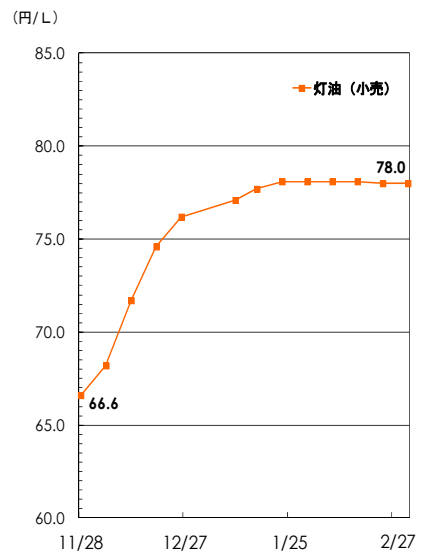
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	2/19 ~ 2/25	814 ▼ -67	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	702 ▲ 88	▼ -	
	輸出	"	167 ▼ -39	▼ -	
	在庫	2/25	1,608 ▼ -56	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/21 ~ 2/27	49.6 ▲ 1.6	▲ 17.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/21 ~ 2/27	46.0 → 0.0	▲ 9.5
		(TOCOM/中部)	2/27	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	2/27	110.2 ▲ 0.1	▲ 12.5	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	2/19 ~ 2/25	574 ▲ 88	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	593 ▲ 36	▼ -	
	輸出	"	20 ▲ 20	▲ -	
	在庫	2/25	1,418 ▼ -38	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/21 ~ 2/27	51.1 ▲ 1.0	▲ 15.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/21 ~ 2/27	49.2 ▼ -1.0	▲ 16.9
		(TOCOM/中部)	2/27	49.0 ▼ -1.3	▲ 18.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	2/27	78.0 → 0.0	▲ 16.7	



■ 関連情報

1 海外/原油

3月1日のNYMEX市場WTI原油は、同日発表された米国エネルギー情報局(EIA)の国内在庫週報で、原油在庫は前週比150万バレル増と市場予想(310万バレル増)を下回ったものの、ガソリン在庫の取り崩し幅が予想を下回ったことから、高値の後は売り圧力が強まった。その後は、トランプ大統領の議会演説を受け、早期の利上げ観測が強まってドル高が進行したことから、売りが優勢となった。4月限の終値は前日比0.18ドル安の53.83ドル、5月限の終値は前日比0.15ドル安の54.28ドルだった。

EIAによると、2月27日時点のガソリンの小売価格は前週比1.2セント値上がりの1ガロン2.314ドル(69.1円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比0.5セント値上がりの2.577ドル(77.0円/ℓ)。ガソリンは2週振りの値上がり、ディーゼルは3週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2月19日～25日に休止したトッパー能力は前週に続きゼロであった。(全処理能力は379.0万バレル/日)。

原油処理量は391.4万klと、前週に比べ4.6万kl減少。前年に対しては14.8万klの増加。トッパー稼働率は92.8%と前週に対して1.1ポイントの減少、前年に対しては6.4ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて灯油のみが増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/8.6%減、ジェット/14.2%減、灯油/18.0%増、軽油/7.6%減、A重油/15.0%減、C重油/4.9%減。今週のC重油の輸入は8.6万kl(前週比0.6万kl減)。軽油の輸出は16.7万kl(前週比3.9万kl減)。

出荷(販売量)は、前週比ではガソリン、灯油、軽油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではすべての油種で減少した。円安により原油コストは値上がりし、小売価格は5週振りに値上がりとなる中、ガソリンの出荷は97.5万kl(対前週18.4%増)と2週振りで前週比で増加、4週連続で前年比で減少となり、4週連続で100万klを下回った。

ジェット6.3万kl(対前週18.4%減)、灯油59.3万kl(対前週6.3%増)、軽油70.2万kl(対前週14.3%増)、A重油28.5万kl(対前週11.1%減)、C重油29.3万kl(対前週18.4%

減)。

(単位:千KL)

	今週 (2/19 ~ 2/25)	前週 (2/12 ~ 2/18)	前週比	
ガソリン	975	824	▲ 151	(18%)
ジェット燃料	63	78	▼ -15	(-19%)
灯油	593	557	▲ 36	(6%)
軽油	702	614	▲ 88	(14%)
A重油	285	320	▼ -35	(-11%)
C重油	293	360	▼ -67	(-19%)
合計	2,911	2,753	▲ 158	(6%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

2月25日時点の在庫は、C重油のみが積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはすべての油種で積み増しとなった。

ガソリンは171.1万kl、前週差15.3万kl減。前年に対しては1.7万kl多い。

灯油は141.8万kl、前週差3.8万kl減。前年に対しては11.5万kl多い。

軽油は160.8万kl、前週差5.6万kl減。前年に対しては7.4万kl多い。

A重油は73.9万kl、前週差0.8万kl減。前年に対しては4.4万kl多い。

C重油は198.7万kl、前週差8.0万kl増。前年に対しては3.9万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (2/25)	前週 (2/18)	前週比	
ガソリン	1,711	1,864	▼ -153	(-8%)
ジェット燃料	875	915	▼ -40	(-4%)
灯油	1,418	1,456	▼ -38	(-3%)
軽油	1,608	1,664	▼ -56	(-3%)
A重油	739	747	▼ -8	(-1%)
C重油	1,987	1,907	▲ 80	(4%)
合計	8,338	8,553	▼ -215	(-2.5%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

2月21日から2月27日までの原油コストは、原油価格は値上がり、為替レートは円高で原油値上りを一部相殺したが、原油コストは小幅に値上がりが見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン104~105円台、軽油49~50円台、灯油50~51円台で値上がりした。海上スポット価格は、ガソリン107~108円台、軽油49円台、灯油49~52円台、先物価格はガソリン105~107円台、軽油46円台、灯油48~50円台で、こちらも横ばいからやや値上がりである。元売の卸価格は1.0円の値下がりから3.0円の値上がりだった。

東燃ゼネラルは3月2日、4日以降の外販スポット価格を、灯油を据え置き、他の油種を1.5円値上する旨通知した。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油コストは小幅に値上がりで、製品スポット市況も卸価格値上りの影響もあり、堅調に推移した。週間のガソリン販売量は、4週続けて100万klを下まわった。

3月第1週(3月2日~3月8日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(2月21日~2月27日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは3.0円、灯油は1.0円、軽油は1.6円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが2.5円、灯油は0.6円の値上がり、軽油は0.1円の値下がりだった。先物価格は、ガソリンが2.6円の値上がり、灯油が1.0円の値下がり、軽油が横ばいだった。原油価格は値上がり、為替は円高でこれを一部相殺したが、原油コストは値上がりとなった。

3月第1週の大手元売の卸価格は、1.0円の値下がりから3.0円の値上がりだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (2/21 ~ 2/27)	前週 (2/14 ~ 2/20)	前週比
スポット価格	レギュラー	50.9	47.9	▲ 3.0
	灯油	51.1	50.1	▲ 1.0
	軽油	49.6	48.0	▲ 1.6
(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (2/21 ~ 2/27)	前週 (2/14 ~ 2/20)	前週比
先物価格	レギュラー	53.1	50.5	▲ 2.6
	灯油	49.2	50.2	▼ -1.0
	軽油	46.0	46.0	➡ 0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (2/21~2/27実績値)		(単位: 円/%)	
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 3.0	▲ 2.6	▲ 2.8
灯油	▲ 1.0	▼ -1.0	➡ 0.0
軽油	▲ 1.6	➡ 0.0	▲ 0.8
A重油	▲ 0.6		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

2月27日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円値上りの130.8円、軽油が前週比0.1円値上りの110.2円、灯油は前週比横ばいの78.0円だった。ガソリン、軽油は5週振りの値上がり、灯油は2週振りの横ばいだった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは27府県、横ばいは7道県、値下がり13都府県だった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、埼玉県125.6円(前週比0.1円安)、2番目が茨城県の126.6円(同横ばい)だった。最高値は長崎県の139.2円(同横ばい)だった。都道府県別で、最も値上がりしたのは前週比1.8円高の徳島県(127.9円)、値下が

り県は0.9円安の福島県(130.5円)、横ばいが長崎県・高知県・和歌山県・山形県・山口県・北海道・茨城県の7道県だった。

原油コストはやや値上がりし、5週振りでガソリン小売価格は値上がりした。今週の元売会社の卸価格は1.0円の値下げから3.0円の値上げに分かれた。原油価格は値上がりで、為替レートはやや円高、原油コストはやや値上がりし、大半の元売りは卸値を引き上げることから、次週(3月6日)のガソリン・灯油の小売価格は値上がり、灯油の小売価格は横ばいが予想される。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)				
		今週 (2/27)	前週 (2/20)	前週比		
小売価格	レギュラー	130.8	130.6	▲ 0.2		
	灯油	78.0	78.0	➡ 0.0		
	軽油	110.2	110.1	▲ 0.1		
					直近高値	
					08/8/4	185.1
					08/8/11	132.1
					08/8/4	167.4

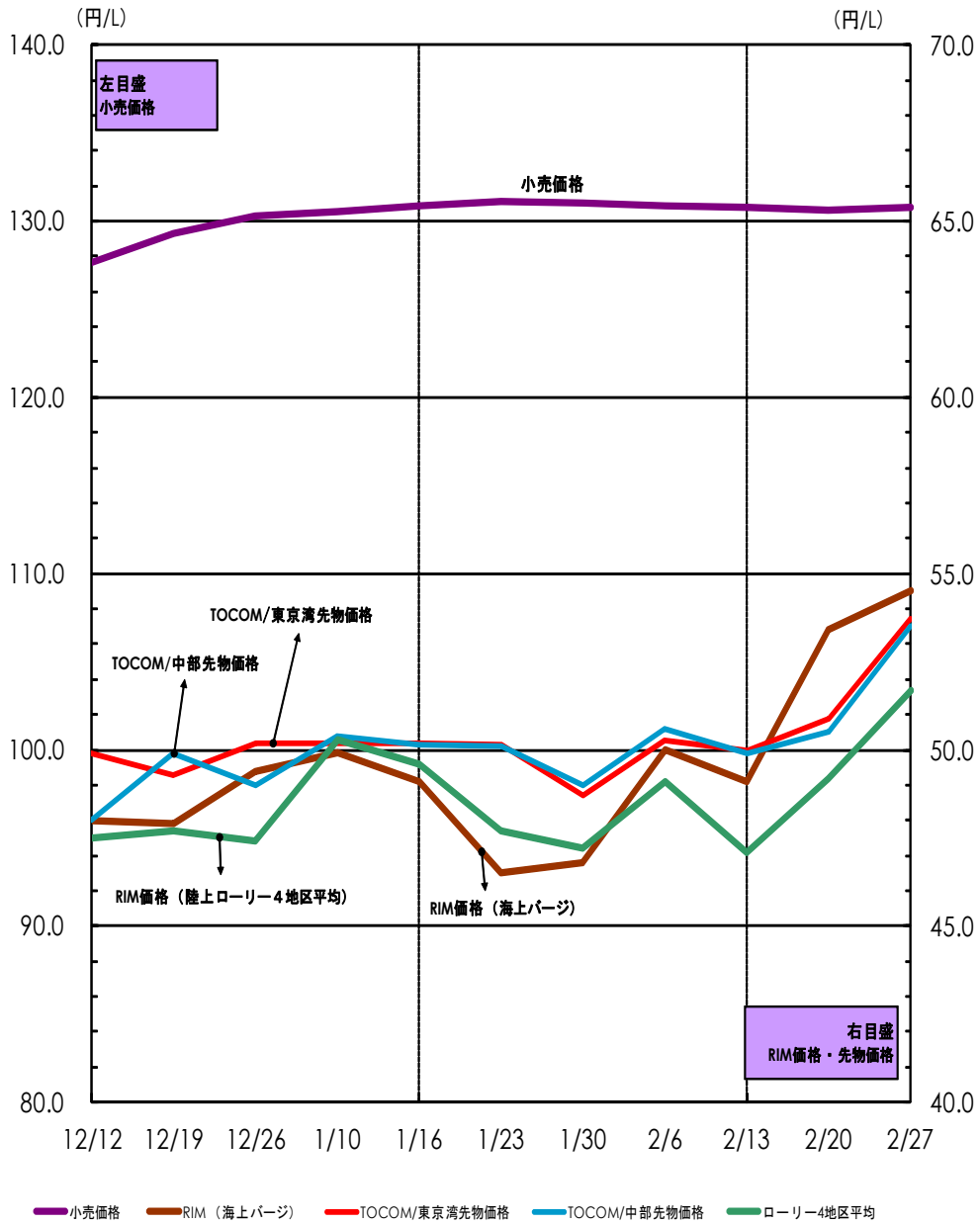
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2016/12/12 ~ 2017/2/27)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2016第47号)の公表は、3/10(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年9月末現在)は、12月21日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。